

Chromebookコマンドを使用したUCC-SWGまたはUCC2.0拡張のトラブルシューティング

内容

[はじめに](#)

[背景説明](#)

[コマンドのリスト](#)

[次の同期を識別する](#)

[登録の再試行](#)

[Chromeストレージローカルデータの取得](#)

[Chromeストレージ同期データの取得](#)

[アラームの確認](#)

[すべてのストレージデータをクリア](#)

[管理対象の構成の確認](#)

[ダイレクトプロキシの設定](#)

[プロキシの詳細を取得する](#)

[DNSキャッシュのクリア](#)

[デバッグ中に登録を再試行する](#)

[デバッグ中に同期を再試行する](#)

[失敗した同期の再試行](#)

[SWG拡張をローカルで有効/無効にする](#)

[特定のSWGプロキシデータセンターを手動でポイントする](#)

[Secure Web Gateway\(SWG\)拡張の無効化](#)

はじめに

このドキュメントでは、Chromebookコマンドを使用して、UCC-SWGまたはUCC2.0拡張の問題を特定および解決する方法について説明します。

背景説明

これらのChromebookトラブルシューティングコマンドは、Umbrella Chromebook Client Secure Web Gateway(UCC-SWG)またはUCC2.0の拡張機能に関する問題を特定および解決するのに役立ち、トラブルシューティングプロセス中に拡張機能に関連する問題の原因を絞り込むのに役立ちます。

コマンドのリスト

[次の同期を識別する](#)

<#root>

```
chrome.storage.sync.get(console.log)  
chrome.storage.local.get(t=>t.syncDataExceptionList.filter(t1=>t1.match('googleapis.com')))
```

登録の再試行

次のコマンドを実行して内線番号をリロードし、登録データをクリアします。

```
chrome.storage.sync.clear()
```

Chromeストレージローカルデータの取得

```
chrome.storage.local.get(console.log)
```

Chromeストレージ同期データの取得

```
chrome.storage.sync.get(console.log)
```

アラームの確認

```
chrome.alarms.getAll(console.log)
```

すべてのストレージデータをクリア

```
chrome.storage.sync.clear()  
chrome.storage.local.clear()
```

管理対象の構成の確認

このコマンドは、Google管理コンソール(GAC)からプッシュされた管理対象コンフィギュレーションをチェックします。このコマンドを実行し、必要に応じてGACからの登録データを修正します。

```
chrome.storage.managed.get(console.log)
```

ダイレクトプロキシの設定

```
chrome.proxy.settings.set(  
{value: {mode: 'direct'}, scope: 'regular'}  
)
```

プロキシの詳細を取得する

```
chrome.proxy.settings.get({}, (details)=>  
console.log(details.value))
```

DNSキャッシュのクリア

```
chrome://net-internals/#dns
```

デバッグ中に登録を再試行する

1. ネットワーク変更の開始
2. 拡張機能をリロードします。

デバッグ中に同期を再試行する

1. ネットワークの変更を開始する
2. 拡張機能をリロードします。

失敗した同期の再試行

同期が失敗した場合、3回の同期が再試行されます。chrome.storage.localデータは空で、chrome.storage.syncには登録データだけが含まれています。

SWG拡張をローカルで有効/無効にする

1. Google管理コンソール(GAC)で開発者オプションを有効にする
2. ChromebookConfigで拡張セット `failClose` にプッシュされた値が `false` に設定される
3. Chromebookで `chrome://extensions` に移動します。Secure Web Gateway(SWG)Umbrella Chromebook Clientがリストされています。
4. 背景ページを開きます。
5. コンソールで、次のコマンドを実行します。
- 6.

```
chrome.alarms.clearAll();

var config = {
  mode: "direct"
};

chrome.proxy.settings.set(
  {value: config, scope: 'regular'},
  function() {}
);
```

7. 完了すると、SWG保護は無効になります。保護を再度有効にするには、Chromeブラウザから拡張機能を更新またはリロードします。

特定のSWGプロキシデータセンターを手動でポイントする

このコマンドは、問題を特定または絞り込むためにトラブルシューティングを行う際に役立ちます。

```
var config = {
  mode: "fixed_servers",
  rules: {
    singleProxy: {
      host: "146.112.67.8",
      port: 8888
    },
    bypassList: ["*.umbrella.com"]
  }
}
```

Secure Web Gateway(SWG)拡張の無効化

```
chrome.alarms.clearAll();
var config = {
  mode: "direct"
};
```

```
chrome.proxy.settings.set(
  {value: config, scope: 'regular'},
  function() {}
);
```

翻訳について

シスコは世界中のユーザにそれぞれの言語でサポート コンテンツを提供するために、機械と人による翻訳を組み合わせて、本ドキュメントを翻訳しています。ただし、最高度の機械翻訳であっても、専門家による翻訳のような正確性は確保されません。シスコは、これら翻訳の正確性について法的責任を負いません。原典である英語版（リンクからアクセス可能）もあわせて参照することを推奨します。